

平成 30 年度第 1 回市川町総合戦略会議（要旨）

会議名	第 1 回市川町総合戦略会議
開催日時	平成 30 年 7 月 4 日(水) 午後 3 時～午後 5 時 10 分
開催場所	市川町役場 4 階相談室
出席者	委員：福田太志、前田宣博、田中基康、石田俊平、阪本浩之、村上和男、岩木和子、小野康裕、津田義和、富士田知子、望月実香、安福均（代理） 町：岩見町長、藤原副町長、尾花企画政策課長、広畑地域振興課長、内藤企画政策課副課長、藤後課長補佐
会議の議題	1 開会 2 あいさつ 資料確認 3 新委員紹介 4 委員長、副委員長の選任 委員長：小野康裕 副委員長：福田太志 5 協議 (1) 平成 29 年度実施事業及び平成 30 年度事業内容等について (2) その他 6 閉会
会議資料	「資料 1」 総合戦略進捗管理シート【K P I 用】 「資料 2」 総合戦略進捗管理シート【事業費用】 「資料 3」 近年の人口変遷 「資料 4」 神戸新聞記事（写し）、ちらし等（ゴルフまつりちらし、笠形オーガニックウォーキングイベントちらし、移住定住パンフレット、住宅分譲ちらし、婚活イベントちらし、）リフレッシュパーク市川遊具イメージ図、(川東) 認定こども園パース図、甘地駅前公園イメージ図 「資料 5」 市川町総合戦略事業評価シート
協議要旨 企画政策課長	1 市川町まち・ひと・しごと創生総合戦略について概要説明 4 月の機構改革により企画政策課が誕生。総合戦略会議は、これまでの総務課の担当から企画政策課が担当することになった。 人口ビジョンによる目標：2060 年度の人口 6,688 人を目標。 この目標を達成するために、総合戦略で取り組むべき事業を定めている。 期間：平成 27 年度～31 年度 添付資料の新聞記事について説明 2 3 月の会議後に委員の方々からいただいた意見に対する評価について

	回答する。 基本目標①市川町における地域産業の振興と「しごと」の創出 ・鶴居地区は住民がまとまって活動されていてすばらしい。他地区にも広がるように区長会などで意見交換をしてはどうか。 →町内で行政懇談会を開催している。重点的に取り組む施策について町民と意見交換をしている。(行政懇談会の予定表及び資料を提示) ・この戦略では人口減は抑制できない。 →定住促進施策として町有地の宅地分譲を実施している。完売するよう努力し、他の町有地についても有効活用できるよう検討している。 ・丸山茂樹監修のアイアンセットの開発は成功例として評価される。 ・商工会と連携し、戦略を共有すべき。ゴルフをイベントで終始しないためにもショールームの開設運営の企画を。 ・文化センター付近に資料館を建設し、アイアンを作りたい人と業者とをマッチングできるような情報館を併設してはどうか。 →ひょうご地域創生交付金を活用し、国産ゴルフアイアン製造発祥の地 PR 推進事業、プロゴルファー監修のゴルフクラブの販売・PR、ゴルフクラブ関連業者と連携した商品開発、町、業者、商工会等と中長期的な戦略を策定するとともに、ゴルフクラブを PR するための拠点整備をするための調査を実施する予定。 ・農の分野に比べて、商工分野はピンポイント感が否めない。 →市川町が国産ゴルフアイアン製造発祥の地であり PR に力を入れていることから、ゴルフ産業が目立っているということだと思う。 ・「ゴルフアイアン発祥の町 市川町」として年間を通じた PR ができるようなものがないか。 ・地場産業の販路拡大、地域ブランド力強化、特産品の販路拡大等の実施内容が見えない。ゴルフ関連事業については単なるイベント化だけとなっており、趣味のない者にとっては関心がない。 →今年度 4 月実施の第 2 回ゴルフまつりにおいて、720 名の来場があり、来年度は 4 月 20 日に第 3 回ゴルフまつりを開催する。ゴルフの PR については HP でふるさと納税のページに掲載しており、ふるさと納税で市川町を選んでいただいた方へのお礼の返礼品として、町内製造のゴルフクラブを取り揃えている。パンフレットもイベント等でも配布している。商工会でゴルフクラブ製造の PR ビデオを作成しており、商工会 HP での閲覧、中播磨県民センターでのリピート再生をしていただいている。また、役場前の看板をリニューアルし、国産ゴルフアイアン製造発祥の町を PR するデザインとするなど、今後も PR を続けていきたいと考えている。 ・若者の意見交換の場を設けて、農業・農地の活用や起業などについて考えを求めている。 →若手就農者と機会を設けて話し合いたい。
--	---

	・46項目ある総合的なものではなく、戦略的をしぼるべき ・具体的な施策、主な取り組みが抽象的で、何をするのかが不明確 →それぞれの分野でニーズに答えるため幅広いものとなっている。ひとつひとつの事業の見える化に努め、丁寧に取り組んでいきたい。 ・農地の集積・集約を部分的であれ積極的に →農地の担い手の集積・集約をするために、農地中間管理事業に取り組み、谷、東川辺、近平、鶴居の4地区で実施。屋形区で農地中間管理機構関連のほ場整備事業を計画。農地の集積率は35.2%、農作業委託を合わせると47.9%。 ・特産品のPR（1つか2つにしぼってPRと販路開拓を） →ゴルフアイアンを中心とし、お米、卵、肉など、ふるさと納税の返礼品として取り揃えている。選択肢を増やせるよう、多くの特産品を出していきたい。 ・町内の就業人口がどれだけ増えたのか →平成17年・22年27年の国勢調査のデータによると微減 ・市川町のGDPはどうなったのか。 →21年度から27年度までのデータによると減少している。 基本目標②市川町への誇り・愛着を生み出し、新しい「ひと」の流れをつくる。 ・若者の定着を期待するのであれば住宅取得支援の充実を →フラット35の協定締結により、新規移住についての制度の充実を図っている。（若者定住促進住宅取得奨励金のチラシを提示） ・上牛尾地区の空き家調査と外部からの移住者に対する住宅確保を早急に行ってほしい。住宅が不足している。 →平成26年、27年、29年に、区長に区内の空き家と思われる家屋について照会しており、それらの家屋について、持ち主に空き家バンク登録意思の有無について照会した。平成30年5月の固定資産税の通知書送付の際に、空き家バンク登録を勧めるチラシを同封。しかし、上牛尾区において登録は1件のみであり、意向調査をしたがゼロであった。 ・学校でのふるさと発見事業は良い →「ふるさと市川」を編集し、小中学校の副教材として活用。 ・地元で活躍している高校生、大学生などにどのように関わっていくようにするのかを検討しては →若者と接する機会として秋祭りがある。そうした事業を盛り上げ継承していくことが、地元愛の醸成、地域住民の結びつき強化の一翼を担うと考える。成人式を実行委員会で運営しており、卒業後に地元の友人と出合い関わることで、地元に戻ってくるきっかけとなることもあるのではないか。 ・「オーガニックタウン」を目指すのであれば、経営の安定、生産量の拡大
--	---

	のための戦略とプロセスを明確にすべきではないか。 →移住定住を促進するため昨年度パンフレットを作成。移住して就農された人や今年度から地域おこし協力隊を笠形オーガニックに迎えるなど、今後もオーガニックタウンが活性化することを期待。(笠形オーガニックファーマーズの新聞、移住定住のパンフレットを提示) ・高齢化のため農地が荒れており、シカ、イノシシ等の出没で農業離れが加速する →防護柵を設置しても被害が後を絶たない。耕作放棄地が目立つようになり、対策の必要性は感じている。 ・HPのアクセス数が評価指数になっているが、アクセス数が増加するとどのような影響があったのか。 →空き家バンクのページの閲覧が増えており、これは多くの人に見ていただく必要があるサイトであるので、目的にかなったものであると理解している。 ・農振の早期見直しを図り、家を建てやすい、住宅を供給できる環境づくりを →29年度に農振の見直しを実施したので間もなく公表。(農振地域整備計画の説明会資料を提示) 基本目標③若い世代が魅力を感じる子育て環境の実現 ・乳幼児、こども医療費助成について、広く周知するために資料配布方法に工夫が必要 →対象者には出生時や転入時に周知し、HP、広報に掲載。ひまわりコート千原のチラシや移住定住パンフレットにも制度について併記している。 ・実績評価について、回数や件数ではなく、全国平均に比べてどうか、他町と比べてどうかなど、市川町の置かれている位置が分かることが大切 →自治体の財政や人口などの規模がそれぞれ違うので、一概に比較することは困難。指標については市川町独自のものとして取り組んでいく。 ・医療福祉助成は、ほとんどの市町が実施しているので必要だが特色がついているか？ →中学生までの医療費無料化と所得制限を廃止し、母子医療については所得制限を緩和している。神河町では30年7月から高校生までの医療費無料化を実施するので、市川町としても制度の是非や導入範囲を検討する必要がある。 ・人口減抑制を目指し市川町に住んでもらうためには、通勤に便利かつ安価で住宅が取得でき、安心して子育てができることが必要だが、その前提として結婚し、市川町に住んでもらうことが必要 →28年度はカラテカによる講演会、バーベキュー婚活イベントをし、1組が成婚。29年度はサバイバル婚活、総社での婚活イベントを実施。30
--	--

	年度は3回を目標としており、これまでの反省点を踏まえ参加者が増えるよう改善して婚活イベントを行う。 ・子育て支援環境の充実 →町内に公立2園、私立1園の認定こども園をスタートし、子育て環境の充実を図る。 ・閉校、閉園の施設の活用方法を考える必要がある →旧瀬加中学校を企業等に活用してもらうため、昨年度「みんなの廃校プロジェクト」に登録したが、申し込みはなかった。条件を緩和するなどして、引き続き登録して活用を求めている。閉園する保育所等の園舎は撤去し、跡地利用については地元と協議を重ね進めていく。 ・費用対効果が分かるようにしてはどうか →出せる部分については報告をしていきたい。 ・全国で最も住みやすい市として評価を受けている朝来市を参考にされてはどうか →朝来市は空き家改修費用助成、遠距離通勤者への助成など、移住者に対する支援が厚く、一定期間の体験移住、多彩な相談機関などの成果が認められ、住みたい田舎ベストランキングNo.1となっていた。朝来市では人口減少に危機感を募らせ、人口減少の抑制が市の最重要課題と位置づけ、専門部署を設置。朝来市に、地域の受け入れについて尋ねると、人口減少にまず危機感を募らせたのは区長であり、区長らが積極的に移住政策に取り組まれたとのこと。村のつきあいやルールが移住者の受け入れにとって壁となっていたが、移住希望者が移住を決める前に区長が間に入って十分に説明し、納得した上で入村するようになり、トラブルもなくなり移住者も増えた。相談にのるボランティアの力も大きいとのことであった。 ・他市町とは違ったユニークな制度は設けられないのか →課長会等で検討していきたい。 基本目標④時代に合った地域をつくり、安心して暮らせる「まち」づくり ・今後高齢者や免許返納者の増加が見込まれることから、バスの行き先を郡内にしたり、金額を100円に統一したりしてはどうか →コミバスについては平成29年10月より路線を増やし、29年度より買い物バスを新たに走らせ、また30年度10月からは福崎町と連携する計画を立てている。29年度より、75歳以上の方に無料乗車券の交付を行っている。 ・全体的に見て戦略的事業と言えず、通常の業務ではないか →行政としては粛々とこの総合戦略を進めていく。 ・時代に合った慣習の見直し、まちづくり人材育成事業などは、完了後どう展開するか戦略が必要 →まちづくり人材育成事業については、昨年度人材育成事業で動画制作を
--	---

委員 地域振興課長 委員長 地域振興課長	学ばれた方たちにより、今年度の県の補助を活用したゴルフPR事業のビデオを作成することになっており、現在町内のゴルフクラブ業者に取材を行っている。 ・下水道の整備は進めるべきだが戦略的なのかどうか ・社会インフラが遅れていることが、市川町を定住先に選んでももらえない一つの要因になっているのではないか →下水道事業については、中部処理区は平成 35 年度の完了を目指し、南部処理区は平成 40 年度の完了を目指している。平成 40 年度の市川町の生活排水処理率は 99%を目標としている。道路、橋梁等はストックマネジメントに沿って順次改良、修繕を進めている。県道については引き続き県に要望していく。 ・甘地駅前は全体構想を描いた中で推進していくことが望ましい ・甘地駅、鶴居駅前周辺整備を一つの重点施策として手を打つべき →甘地駅前は、5 差路となっており優先関係が分かりにくく危険だという意見は聞いている。町としては、地元区長会と甘地駅前活性化について協議し、交差点の改良は町民の願いであると理解している。今年度、甘地駅前、鶴居駅前の活性化を図るための基礎調査を実施する予定。駅周辺の環境整備を図るためのグランドデザインを描いた上で、円滑かつ安全に交差点を通行できる交差点の形状を考えていきたい。 ・バリアフリーにかかる住宅リフォームについて、もっと周知を図る必要がある →広報等を利用して住民に伝えるよう努めている。 ～質疑応答～ 国産ゴルフアイアン製造発祥の地ということで、町をあげてPRされているところであり、ゴルフまつりが事業者の方と連携して盛大に行われたが、年1回のイベントということで、国産ゴルフアイアン製造発祥の地のPRとしては弱く感じる。やはり、他市町から来られた方が立ち寄れるような施設やブースが要るのではないか。県の交付金を使って計画をされているということであったが、具体的に計画があれば、進捗状況を聞かせてほしい。 今年度調査を行う予定。来年度予算にも反映できるように、早く進める必要は感じている。具体的は時期や形は決まっていないが、ゴルフまつりの運営委員会のメンバーを核として取り組んでいこうと考えている。 方向性はまだ定まっていないということか。 来て寄って見てという交流・情報発信の施設整備は、何らかの形で必要であると我々も考えている。どういうものをどういう形で作るかについては、箱モノを作るとランニングコストも考えていく必要があるので、後年度の負担にならないように、またいいものが出来たと評価していただけるものを、と考え事業者や関係者のアドバイスを受けながら取り組んでいき
--	--

委員長 委員	たい。 この件について、他にご質問等は。 まだ行政との協議はできていないが、進めていくということで早いうちに方向性を協議して決めたい。夏の間は何度も協議を重ね、具体的などころまで決めていけたらと思う。
委員長 委員	関連する観光協会会長でゴルフ産業の望月さん、いかがですか。 観光協会会長としてではなく、ゴルフ事業者としての意見であるが、調査をしていただくのはありがたいこと。ただ、箱モノを建てるという前提での調査はしないでいただきたい。作った後、運営、ランニングコスト、設備などは、事業者にとっても非常に心配なこと。何かはほしい、という意見は分かるが、作らなければならないものなのか、あるいは事業者が連携して工夫すればできることがあるのかどうか、深いところまで議論を重ねていただきたい。
委員	再々申し上げているようにスピード感を持って取り組んでほしい。 トータルとして私の意見を申し上げますと、私は市川町の行政運営、財政運営を 30 年前から見てきた。合併問題が浮上したとき、下水道を含め財政状況が非常に苦しかった時期も見てきているが、この資料を含め今の状況を見ると、よくできていると思う。いろんな施策がバランスよく組み合わさっているところも、市川町が良くなったなと実感するところである。ただ、早晚兵庫県内で最小の町になることが目に見えている中で、行政がよく整っている一方で、全国的にも同じ傾向ではあるが人口減が止まらない。町内の方が、町政について良くなった、とか、変わった、とか感じておられるかどうかを一番知りたい。このことのパワーがなければ外への発信力がない。良くできている行政の発信力＝（イコール）住民の満足感、このシンプルな実感が皆さんにおありかなと思う。 ゴルフについて言えば、望月さんが言われたことも然り、何かが要ということも然りで、私自身は何かが要という方に近いが、そのためにももっと議論を重ねていく必要がある。そこのぶつかり合いが足りないように思う。
企画政策課長 委員	昔から、市川町では昭和 3 年からアイアンを製造していたことは知っていたが、最近になっていろんな機会をとらえて声をあげてきて、ようやく動き出してきたなという印象。情報発信やしかけはどんどんしていくべき。 私が最近他の市町へ行って、どこから来たのか聞かれたときは、せせらぎの湯、かぶとむしど～む、ゴルフ発祥の地ということで市川町を紹介している。夏場は、かぶとむしど～むによく行きます、という話を聞くことが多く、是非来てください、とアピールしている。 空き家について言うと、近所の空き家に、中学生と小学生の子どもをもった方が引っ越してこられるという話を聞いていた。なぜ市川町を選ばれたのか聞くと、もともとよくせせらぎの湯へ行っておられる方で、せせらぎの湯へ行ったときに、地元の方と話をしている所だということで決めら

地域振興課長 委員長 委 員 委 員	れていたところが、中学生の子どもさんが転校を不安に感じられて、残念な結果となった。 農地が荒地になっているのを実感する。イノシシやシカが頻繁に出てくる田んぼは、息子たちも作りたがらない。山の方に罾をしかけられて、実際に引っかかっているのも見たことはあるが、聞くところによると猟友会の人数が少ないらしい。そういうことをPRをしたり、補助金を出したりということは考えておられないのか。 ずいぶん前から防護柵についての補助を受けて対応をしてきている。町内の90%近くは設置が終わっている。イノシシなどが入って来ないようにするためには、日ごろのメンテナンスも必要なので、地元の方にはそこは続けていただきたい。猟友会の方の高齢化も進んでおり、新たに狩猟免許を取る方がほとんどいない状況で、人数は減る一方。その中でも、連絡が入るとすぐに対応していただいている。ただ、1頭獲るごとにもらえる補助金もあるので、猟友会の方に補助を出すことは今のところ考えていない。ただ、今後もっと有効な方法が出てきた場合は、取り入れていきたいと考えている。 私自身も農業に携わっているが、客の層が変わってきている。後期高齢の方が野菜作りから離れられた印象。その原因として、高齢化もあるが、米作の補助金がなくなり米を作るのもやめ、自家菜園での野菜作りもやめる、ということになっている。農地離れ、農業離れが5年で一気に進んでいる。これまで買いにこられていた後期高齢の人たちは、同じものを安く多く買っていたが、若い人は、いろいろなものを少ない量を単価が高くても買う傾向があるため、売り上げの変動はなく、本数は減っているという状況。思っている以上に農業離れは進んでいる。同じように、空き家についても思っている以上に進んでいると思う。強力な手立てを打つ、あるいは違う考えを持たない限り、解決はできないかなと思う。 高校教育についての現状をまず報告させていただきたい。年々発達障害の生徒が多くなってきており、思っている以上にグレーゾーンの子が増えていると思われる。昨今の生徒は、精神的に幼くなってきているように感じる。何年か前のやんちゃな生徒は激減している。本校もイメージはあると思うが、おとなしい生徒が増えており、どここの学校でもスマホ依存が問題となってきている。危険な“ながらスマホ”や無責任な書き込みなど、学力の高さとモラルが比例するわけではなく、またスポーツができるからと言ってモラルが高い、礼儀正しいというわけでもない。本校でも人間性という部分を意識して教育を行っているが、生徒や保護者がどう評価するか把握しておくべきだと考えている。市川町においてもさまざまな取り組みをされているが、若い人、移住者に対する教育の評価が大きな意味を持つのではないかなと思う。市川町に移住された方がどのような印象を持っておられるのかを把握し、改善していったらどうか。 先ほどの話にもあったように、現在の子どもを見ているとそういった傾
--	--

	向にあると思う。市川町を活性化するためには、スポーツの力は重要である と考える。オリンピックに出場した選手がいたらその自治体はとても盛 り上がるし、ワールドカップが開催されてもとても盛り上がる。市川町で もそうした選手を育てられるような環境づくりが必要ではないか。市川高 校でも以前からスポーツの分野には力を入れていただいているので、これ からもそういう選手を育てることにも力を入れていただけたら、市川町の ためにはなるのではないかと思います。中学校でも生徒数が非常に少なくな っているの、将来的には中学校を1校にして、生徒らがクラブ活動を選 べるような環境を作っていただき、全国大会やオリンピックを目指す選手が 出るような施策を考えていただきたい。
委 員	18歳の長男と14歳の次男との子育て中で、この会議に出るにあたり長 男に「市川町のどこがあかん？」と聞くと、播但線が福崎発、福崎止まり が多く、甘地駅が不便なところ、ということであった。今は神戸まで通っ ており、帰る時間も遅くなるし、時間が遅くなると治安も悪くなる。公園 整備もいいが、駐輪場を整備してもらって、いたずらをしにくい環境にし てほしい、と言っていた。農業高校を出て農業に携わりたいにも関わらず、 先祖からの農地がないために農業ができず、都会で就職している子もいる。 そういう人に、農用地が余っているということを知らせられるといいなと 思う。
委員長	今日の新聞に、行政が単独ですべきこと、連携してすべきことを明確に すべきだということが書かれていたが、今後もっとそういうことが必要に なってくる。播但線に関して言うと、福崎駅周辺の整備が終わると、市川 町からも瀬加のようにさらに福崎駅利用が増えると思われる。実際、新野 駅が改修されたときは、鶴居駅と寺前駅の利用客が減少した。安く、きれ いで安全な駅が利用されている。
企画政策課長	甘地駅や鶴居駅の活性化、施設の整備は一度にはできないので、段階を 経て、また市川町内の道路ネットワークも考慮した上で整備計画を立てて いく必要がある。県立大学やまちづくり技術センターと協議をする予定で あり、こういう会議でも進捗状況を報告していく。先ほどの富士田さんの 意見も取り入れていきたい。
委員長	富士田さんが言われていたように、農業をやりたいという方はわりとい らっしゃるが現実的には続かない。なぜかという、農業をできる環境が 整ったとしても、食べていけない。食べていけるための環境をどう作って いくか、ということも大事であるし、農地は今後余ってくるとされるが、 いい所は余らないのでできない、という構図ではないか。このことに限っ たことではないが、マッチングが問題となってくるのではないか。
委 員	他にご意見は？ 進捗管理シートについて、4つ質問をしたい。1つは移住定住、空き家 バンクのところで、6人の目標に対して14人の移住があったということだ が、こういう方へのサポートはどういうふうになっているのか。2つ目は、

企画政策課長	朝来市の話が出ていたが、朝来市は子どもたちに、いかに地域の誇りを持ってもらうか、ということに力を入れており、夜に子どもたちを集めてワールドカフェのようなことをしている。子どもたちに町の課題について聞いて意見を出し合っている。具体的に、次世代を担う子ども達に向けたアプローチをどのようにされているのか聞きたい。3つ目は姫路を中心とした連携中枢についてであるが、先日 JR 福知山支社長と話をしたときに、8市8町それぞれに酒蔵や酒米があると、車では運転できないので JR の縦と横のラインをつないだ事業をできないか、という話が出た。市川町として連携中枢で取り組みたいようなことがあるのかどうか聞きたい。4つ目は、これをしてください、と行政にお願いしてお金が続く間はやっていけるが、地域が主体となる取り組みに持って行くような仕掛けがあれば聞かせていただきたい。 意見は、4点目につながるが、自分たちのまちの誇りを地域の人がしっかり持っているという部分で、地域の皆さんが主体的に考えていかれるような場づくりが必要ではないかと思う。今日の神戸新聞1面に掲載するように、2040年には圏域を主体とした行政にしてはどうか、という話があるが、広域行政が続いていくと、地域の特性や特質が消される可能性がある。その点からも、地域の人が主体となれる仕掛けが必要だと考える。
委員	1つ目の移住者へのサポートについてはできていない。移住される目的があると思われるが、有機農業を目的に移住された場合は笠形オーガニックとの関わりはあるが、行政からのサポートはないと思う。 2つ目については、子ども達へのアプローチは非常に大切なことであり、子どもたちがこんな町に住みたいと思う町づくりをしていかなければならないと思う。ただ、現在は具体的なことはできていない。 3つ目の連携中枢については、姫路市が中心となって取り組んでおられ、さまざまな提案をいただいている。参加できるものできないものがあるが、北播磨でゴルフの大会をされると中播磨からの参加者が多いと聞くので、途中で足を止めてもらえるような町にしていきたい。 4つ目について、小野さんが取り組んでおられる甘地駅前ピアガーデンの取り組みがある。行政としては、そういう事業に参加して意見交換をするような関わりを持つことが、地域の活性化につながるのであれば、そういう関係性でもいいのではないかと考える。
委員	田中センター長も言われていたが、よくこれだけの課題を明確にされたな、と思う。しっかり発信していくので、是非、うまく我々（新聞社）を使っていただきたい。子どもについても、自分の名前や写真が少しでも出たら子どもたちも喜んでくれる。子どもから出た意見を1つでも2つでも実現してあげていただきたい。それが成功体験となってどんどん意見が出るようになると思うし、場合によっては我々もそこに入らせていただき、一緒に解決を図っていかれたらと思う。 自分自身は姫路市に住んでおり市川町の住民ではないが、市川町で仕事

	をして4年目となるが市川町で過ごす時間の方が長く、市川町のことがよく分かるようになってきた。 温泉の経営状態が悪く、つまりは町に入る入湯税が減るということ。さまざまな取り組みを進めて集客増を図っている。先ほど教育のことが話題に出たが、週末に多いファミリー層を見ていると、最近の親は注意をしない。おじいさん、おばあさんが注意をしている。そういう意味では温泉も教育の場であると思うので、子どもたちにも大勢来てもらって教育をしていきたい。 インバウンドの話は今回入っていないが、中国人の客が増えると常連の客が来なくなると言われるほど、中国人のマナーは悪い。インバウンドで成功しているお風呂は、最初にレクチャーをしてからお風呂に入ってもらいたい。そういう事例もあるので、インバウンドもうまくいく可能性もあるのかなと思っている。 昨年は11万人の集客ができたが、市川町には是非この集客を使っていたきたい。オーガニックファーマーズとは連携して事業を進めており、下岡のニンニクについても、温泉で販売してはどうかと声をかけた。道の駅が市川町にないので、皆が遊びに来てイベントができて、という場にしていきたいと思っている。 1つ質問があるが、笠形オーガニックで有機農業をしているが、隣の田んぼで農薬散布をしている。これについて住民との話はどうなっているのか？
地域振興課長	笠形オーガニックファーマーズで借りているほ場の隣が、一般に農業をされている方のほ場であり、ヘリコプターによる農薬散布も、気を遣いながらしていただいているようである。最初に集落を回って説明をした際には、農薬散布ができなくなるのか、という質問もあった。農薬をまけないなら農業はもうできない、と言われたが、共存するためにはやめてください、とは言えず、農業をされている方は続けてください、ヘリコプターの散布はできるだけ控えていただきたいという話をした。ただ、従来からされている方も意識は変わりつつあるのかなと思う。
副委員長	空き家の件で、私の区では昨年と今年と空き家の調査をした。月に1度は帰ってきている、あるいは3か月に1度、半年に1度という調査をし、現在は家に帰ってくるのか、帰って来られないのであれば、売却や借家について考えておられるのか、調査をしているところ。今日HPの方でも掲載されているということを知ったので、そういうことも考えていきたい。土地も含めて500万円までであれば入りやすいのではないかと思います、こうした調査を行い、住民を増やすためにも、空き家管理の手間を減らしていくためにも今現在取り組んでいるところである。
委員	夏休みなどに大学がゼミ単位でフィールドワークを行うことがある。その一定期間だけ空き家を提供し、とりあえず地域を訪れてもらう、農業体験をしてもらう、場合によってはゴルフアイアンの製造を見てもらう、マ

委員長 委員	ーケティングについて考えてもらう、など大学生を引き込むようなことをしてはどうか。そういうことも大学と連携しているので相談にのることができる。 観光協会としての意見は？ 観光協会として思っているのは、移住定住の促進は非常に難しいこと。神崎郡内に産科がなくなった現在、移住を促すのはハードルが高いのではないかと思う。その中で町の活性化を図るには、交流人口を増やすことが大切ではないか。観光協会でもそういう取り組みは積極的に行っていきたい。 若者が戻ってくるまち、これはやっていきたい。市川町には公立高校がなく、中学校を卒業するとどこかへ出ていくことになり、あなたの町はどんな町？と聞かれたときに、子ども達がきちんと答えられるかどうか、そのためにも小中学校での自分の町に誇りを持てる教育を進めてほしい。子育てに関して言うと、認定子ども園を作るなど、お世話の部分大切にしてもきらっと光ることにはならないのではないかと。認定子ども園を作り、そこで何をするのか、それを発信することが大切ではないかと個人的には考える。 元気な町にしていくためには、子どもが元気であると同時にお母さんが元気であることも大事。お母さん方の悩みを解決するサポートも整えていくとよい。元気なお年寄りを増やすことも大事。そのようなことを考えながら、観光協会の事業に取り組んでいきたい。
委員長	私が様々な活動をしていく中で感じるのは、反応のない町だということ。最近では、反応がないということは、してもよいことだと考えている。どうやって住民側が反応していくか、の学習も非常に大事だと思う。責任は我々にもあるし行政にもある。 総合戦略でどのように人口減少を抑制していくか、活性化した町にもっていくためにはどうしたらいいか、次回会議に向けて皆さんも考えていただきたい。 2 閉 会